

いきいき健康セミナーを開催しました

令和元年11月7日(木) 筑紫病院においていきいき健康セミナーを開催しました。「脳卒中と闘おう」というテーマで、当院脳神経外科・脳卒中センター教授の東登志夫先生が講演しました。当日はたくさんの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。今後も市民の皆様役に立つセミナーを予定していますので多くの方にご参加を心よりお待ちしております。



クリスマスコンサートを開催しました

令和元年12月23日(月)に筑紫病院ガーデンホールにてクリスマスコンサートを開催しました。今年も福岡大学付属若葉高校吹奏楽部をお招きし、素敵な演奏を聞かせていただきました。また、そよご保育園の可愛い出し物や、パフォーマーによるバルーンアートもあり、クリスマスらしい楽しいひとときを送ることができました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



「第13回市民公開講座 糖尿病フェア」を開催しました!

令和元年10月12日(土) 筑紫病院ガーデンホールにて「サルコペニア・フレイル～増やそう筋肉・減らそう脂肪～」というテーマで糖尿病フェアを開催し、多くの皆様にご来場いただきました。

当日は、医師・看護師・管理栄養士・薬剤師等による健康相談、身体測定に加えて、「糖尿病カンパセーション・マップ」という新しい教材を用いて、数名のグループで、境遇を共にする患者さんの知識や体験から糖尿病について互いに話をさせていただく場も設けました。その後の講演会では、健康運動指導士の松本久美先生から「楽しく動いて、サルコペニアを撃退!」というテーマで講演をしていただきました。講演では、椅子を用いた運動や、参加者同士でゲームをしながらの脳トレーニングを行い、たくさんの笑顔が見られ、楽しい講演となりました。



▶ 診療日のご案内

	循環器内科	内分泌・糖尿病科	呼吸器内科	消化器内科	小児科	外科	整形外科	形成外科(午前のみ)	脳神経外科	皮膚科(午後のみ)	泌尿器科	眼科	耳鼻科	放射線科
月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
火	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【受付時間】
 (平日) 8:40~11:00
 ※皮膚科(月曜) 14:00~診察(4月より診療日変更)

【休診日】
 土曜日(7月より休診)・日曜日・祝祭日
 年末・年始(12月29日~1月3日) お盆(8月15日)

【面会時間】
 (平日・土曜日) 13:00~20:00 (日曜日・祝祭日) 11:00~20:00

▶ 交通のご案内



JR・西鉄電車ご利用の場合
 西鉄大牟田線「朝倉街道駅」下車……………徒歩3分
 JR鹿児島本線「天拝山駅」下車……………徒歩3分

自家用車ご利用の場合
 九州自動車道「筑紫野IC」より……………車で5分
 県道31号線「鳥栖筑紫野道路」武蔵交差点より……………車で5分

※時間帯により、交通混雑が予想されますので、ご利用時間は目安としてください。
 ※なるべくJR、西鉄電車などの公共交通機関をご利用ください。



ちくし



あたたかい医療

(私たちは、心の通う医療を実践しています)

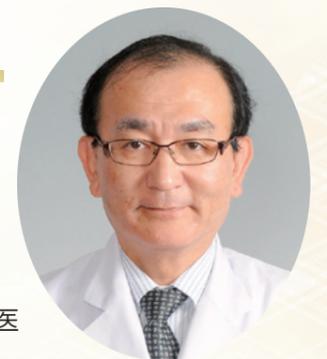
私たちは地域に密着した救急医療を目指すとともに、大学病院として質の高い医療と情報を提供し、地域の皆様に安心と信頼を持っていただけるよう努めています。その基本は「人間性に立脚した医療」、その繋がりを大切に、患者さん本位の“あたたかい医療”を実践しています。

目次

- 新年のご挨拶……………1
- 呼吸器・乳腺センター診療の紹介……………2~3
- いきいき健康セミナー開催/クリスマスコンサート開催
- 市民公開講座 糖尿病フェア開催……………4

新年のご挨拶

病院長 柴田 陽三



新年あけましておめでとうございます。健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年4月に病院長職を拝命し、早1年が経とうとしています。これまで大過なく過ごすことができましたのは、皆様方の温かいご支援、また開業医の皆様方のご協力のおかげと深く感謝いたします。

昨年を振り返りますと、2019年4月に腫瘍・緩和ケアセンターと呼吸器・乳腺センターを新設しました。腫瘍・緩和センターには、緩和ケア、化学療法など、がんに関するすべての領域を統括する部門として、診療部長を始め、それぞれの領域に専門の医師やコメディカルを配置し、呼吸器・乳腺センターには、日本乳癌学会の乳腺専門医・指導医資格を有する診療部長を配置し、地域がん診療病院としての質を高め、より相応しい病院とすべく、機能の充実を図りました。また、団塊の世代の方々がすべて後期高齢者となる2025年に向け、地域包括ケアシステムの構築を進めることは不可欠であり、在宅医療への関心はますます高くなっています。このような状況に対応すべく、地域医療支援センター・在宅支援室を中心として、地域の介護施設や訪問看護ステーション、在宅医の先生方との連携を強化し、在宅復帰率を増加させることができました。

厚生労働省より提示された2020年度診療報酬改定の基本方針(骨子案)において、改定の基本的視点として、医療従事者の負担軽減、医師等の働き方改革の推進が重点課題とされています。当院においても、昨今の病院勤務医の過剰労働問題、働き方改革等への対応として、昨年8月から、土曜日を完全休診といたしました。今後も引き続きすべての職種で、タスクシェアリング・タスクシフティングを推進し、地域の医療体制を守るべく、労働環境の整備に取り組んでいく所存です。

本年度は診療体制の一層の充実や医療のさらなる質の向上を目指し、第三者からの評価として、2020年11月に日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審いたします。当院の基本理念であります「あたたかい医療」を職員一人一人が実践し、全職員が一丸となり地域に根ざした病院を目指し、皆様方のご支援により地域医療の充実に努めて参ります。

最後になりましたが、皆様方にとって本年が幸多き年でありませう、心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

呼吸器・乳腺センター診療の紹介

呼吸器・乳腺センターは2019年4月より診療を開始いたしました。スタッフは診療部長の山下真一と外科所属の吉田康浩、永田旭の3名で担当しております。当院は日本呼吸器外科学会の関連施設として、これまでも多くの呼吸器疾患を診療して参りましたが、これまでの実績に加えさらなる高度な医療の提供を目指しております。また、筑紫地区で乳腺診療を行う病院が不足していたことから乳がんの治療も可能なセンターとして総合的な医療が可能となるように開設されました。これにより当院においても5大がんのうち**男性で最も死亡数の多い肺がん**と**女性で最も罹患数の多い乳がん**の診療体制が充実したものとすることと確信しております。



呼吸器・乳腺センター 診療部長
山下 真一

呼吸器外科

呼吸器外科専門医認定機構認定の専門医資格を3名が有し高度な診療が可能です。肺がんに対する多くの手術を侵襲の少ない胸腔鏡で行い良好な結果を納めております。これまでの4~5ポートの多孔式胸腔鏡手術に加え、4cmの創のみで行う単孔式胸腔鏡手術も可能となっております。この手術は台湾、香港などのアジアやヨーロッパで普及

してきた手術で、創が一つのため痛みが少なく、患者さんにより優しい手術として認識されるようになって参りました。最近日本でも若手外科医を中心に技術習得の流れがあり、私が2015年より福岡大学病院で行ってきた実績により当センターでも4月以降行っております。(図1~4) また、これまで



図1 Single port (4cm)の位置

図2 術中の外観

図3 Wound retractorを用いた単孔式手術

図4 術後創

当院では不可能であった進行肺がんに対する拡大手術として、肺動脈形成術や気管分岐部切除を含めた左肺全摘術も行い、すべて安全に施行され軽快退院されました。特に分岐部切除は全国でも年間10数例しか施行されておらず、

肺がん手術の中で最も難度の高い手術です。これまで福岡大学病院で行っていた手術が当院でも可能となりました。(図5~7) これもスタッフの充実によるものと病院長はじめ関係各位の皆様へ感謝申し上げます。肺がんやその他の呼吸器疾患においての外科手術の適応については、毎週水曜日の午後より呼吸器内科との合同カンファレンスで検討しながら診療を進めております。



図5 気管分岐部切除

図6 気管分岐部切除

図7 気管気管支吻合

乳腺外科

乳がん診療はこの20年で大きな変革を遂げました。以前は手術と抗がん剤およびホルモン剤の術後補助療法としての治療が主たる治療でしたが、ハーセプチンの登場以来分子標的薬剤などの選択を含めたプレシジョンメディシン(以前のオーダーメイドメディシン)が主流となり、患者さんそれぞれに合わせた治療を行うことが大切な時代となりました。かつてのように一般外科医が片手間に乳がん診療を行うことは困難となり、

乳癌の罹患予測

【2019がん罹患数予測】

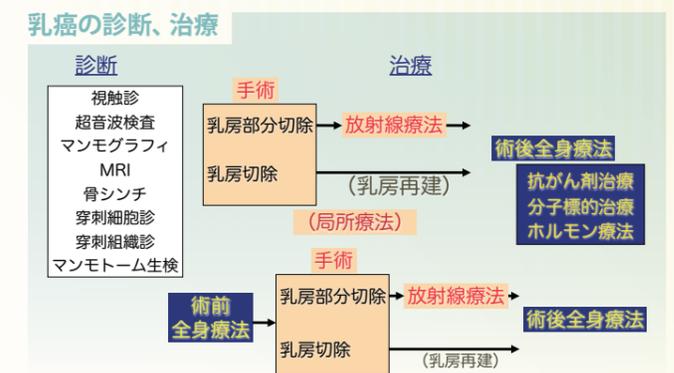
部位	男性		女性	
	罹患数	部位	罹患数	部位
全がん	572,600	全がん	444,600	
大腸	89,100	乳房	92,200	
胃	84,200	大腸	66,300	
肺	82,700	胃	39,900	
前立腺	78,500	肺	39,600	
肝臓	24,500	子宮	26,800	

国立がん研究センター がん対策情報センター

日本乳癌学会認定の専門医がエビデンスに基づいた治療を行う時代となっております。これまで当院では専門医不在のためご紹介いただいても他の乳腺専門医のいる病院へ紹介してはりましたが、4月より私(専門医、指導医)が赴任し、診断から治療まで完結できるようになりました。このため2次検診をはじめとして近隣の先生方からの紹介も増え、半年で施行した手術は18例を数えております。今後はますます乳がん患者の増加が見込まれ、外来待機時間の延長などが危惧されますが、迅速な対応を心がけたいと考えております。

乳腺診療の流れ

診断として、視触診、マンモグラフィ、超音波検査を行い腫瘍の有無を判断します。腫瘍の存在が確認された場合、針生検を行い組織学的診断を確定します。乳がんは大きく4つのタイプに分類され、「ホルモン療法感受性があり進行が遅いルミナルAタイプ」、「ホルモン療法感受性はあるが増殖の速いルミナルBタイプ(ルミナルHer2タイプを含む)」、「ハーセプチンが有効なHer2タイプ」および「いずれのマーカも存在しないトリプルネガティブタイプ」です。それぞれのタイプにより治療法が異なりますので、生物学的なタイプを診断して腫瘍の特性に応じた治療が必要となります。また、遠隔転移診断として骨シンチ、胸部部CTおよび乳腺内の広がり診断に乳房MRIを行ってステージを決定します。



治療は局所治療としての手術や放射線療法と全身療法としてのホルモン療法、抗がん剤治療、分子標的療法に分けられます。

手術では**乳房温存術**または**乳房全摘術**に**センチネルリンパ節生検**を行っています。センチネルリンパ節生検は色素法で行っていますが、ほぼ全例同定できており郭清を省略することが可能です。4月より形成外科が診療開始したことによる乳房再建も可能となりましたが、インプラント後の悪性リンパ腫発生報告を受けまだ開始しておりません。

全身療法としてはステージI期、またはIIA期でルミナルタイプであれば抗エストロゲン剤やアロマターゼ阻害剤などの10年投与(閉経後)、閉経前では抗エストロゲン剤に加えてLH-RHアナログの投与を行います。またホルモン療法に加えてCDK4/6阻害剤のイブランスやベジニオなどの**分子標的薬剤**も使用可能となりました。**抗がん剤**においても初回のみ入院で行い、2回目以降は外来化学療法室で行うことを基本としています。Her2タイプでハーセプチンやパージェタ、カドサイラといった**分子標的薬剤**を用いて治療を行っています。これまで予後不良と言われたHer2タイプもこれらの新規薬剤のおかげで長期予後が期待できるようになりました。トリプルネガティブタイプは抗がん剤による治療が必須です。再発乳がんに対しても抗がん剤や分子標的薬剤を使いQOLを保ちながら治療を継続できるよう努めています。

呼吸器・乳腺センターで扱う主な病気

呼吸器疾患	原発性肺がん	縦隔腫瘍	良性肺腫瘍	乳腺疾患	乳がん
	転移性肺がん	気胸、血胸	縦隔リンパ節腫大		良性乳腺腫瘍
	悪性中皮腫	膿胸			乳輪下膿瘍、乳腺炎

山下真一 略歴

1986年 熊本大学卒
1994年 熊本大学大学院修了 医学博士
1994年 スイス・ジュネーブ大学免疫病理学留学
2004年 国立病院機構熊本医療センター 外科医長
2006年 大分大学医学部腫瘍病態制御講座(第2外科) 助教授(准教授)
2011年 大分大学医学部総合外科学第2講座 診療教授
2012年 福岡大学医学部外科学講座 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 准教授
2013年 福岡大学医学部外科学講座 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 診療教授
2019年 福岡大学筑紫病院 外科 准教授・診療教授 呼吸器・乳腺センター診療部長

<資格>

日本外科学会 専門医、指導医
日本呼吸器外科専門医認定機構 専門医
日本胸部外科学会 認定医
日本乳癌学会 専門医、指導医
日本消化器外科学会 専門医、指導医
日本消化器外科学会 消化器癌治療 認定医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医、暫定教育医
日本食道学会 食道科認定医
Society of Thoracic Surgeon (International member)
日本呼吸器外科学会 評議員
日本胸部外科学会 評議員
日本肺癌学会 評議員
2007年度 日本胸部外科学会優秀論文賞
2016年 Masters of Thoracic surgery Uniportal VATS lobectomy and VATS segmentectomy Video Contest Best Demonstration Award